

【研究発表大会記録】

三角東港周辺の街並み形成について

時松 雅史¹⁾*

1 熊本高等専門学校八代キャンパス 〒866-8501 八代市平山新町 2627

*e-mail: tokimatu@kumamoto-nct.ac.jp

本稿は、平成 28 年 6 月 5 日の研究発表会でポスターセッションにより発表したものに加えて、写真および地図を追加したものである。一昨年来、三角西港は世界文化遺産の登録により県内外から注目を集めているが、三角東港周辺の発展についても多くの人に関心を持ってもらいたいという思いから、今回、掲載の機会を与えていただいた次第である。

三角東港は、明治 20 年 (1887) の三角西港開港から 12 年後の明治 32 年 (1899)、西港南東部に位置する島崎に九州鉄道三角駅が完成し、この旧三角駅の南側 (水上の鼻) に船着き場が設けられたことにより、街並み形成が始まることとなった。この街並みは三角線の線路を隔てて北西に伸び、町名は木崎町、金比羅宮前の通りとして、繁華街となる。明治 36 年 (1903) に現在の三角駅が完成すると、今度は駅前の東側と西側に街並みが広がり、特に東側は、旧三角駅の方角に向かって長く伸びていった。

金比羅宮前の通りは昭和のはじめに栄町と改名され、貯木場として利用された遊水池に沿って、西側方面に街並みが伸びていった。さらに、三角小学校へ通じる通りとなる旭通り沿いにも街並みが形成され、昭和 30 年代には三角町の中心街として賑わった。加えて、遊水池の北側に

は遊郭街もつくられ、港町によく見られがちな景観が形成されていった。駅前通りも昭和 30 ~ 40 年代に、パチンコ屋・飲食店・金融業等が立ち並び、鉄道と船を利用する客で賑わった。また、三映館や中島映劇という名前の映画館もあり、松橋まで行かずとも、三角町内で十分映画を鑑賞することができた。

図 1 は明治 37 年 (1904) 大日本帝國陸地測量部が発行した三角の地形図 (5 万分の 1) である。この図から、現在の三角東港周辺はまだ市街地化されていないことがわかる。この時期は三角西港が三角の中心街として発展していた。



図 1 明治 37 年 (1904) 大日本帝國陸地測量部が発行した三角の地形図 (5 万分の 1)



図2 三角町作成による三角町全図(2千分の1).



図3 昭和40年代初期の三角駅前風景。
(三角町西山写真館所蔵)

図2には三角町が作成した「三角町全図(2千分の1)」を示す。作成日は不明であるが、一号橋が架かる昭和41年(1966)より数年前のものと考えられる。この地図からは現在の郵便局がある場所や、線路を隔てた向かい側の地区はまだ埋立が進んでいないこと、現在の宇城市三角支所がある場所一帯は開発が進んでおらず、水田になっていることが確認できる。

図3は海側から撮った三角駅前の風景である。昭和40年代初期に撮影されたもので、図2に見られるように、海岸線が駅前道路に迫っているのが確認できる。聞き取り調査によると、この埠頭で生簀をつくり海鮮料理を提供する業者が3軒あって、熊本市などの遠方からもお客が来ていたそうである。

図4は三角小学校へと続く旭通りの街並みを写したものである。撮影されたのは、この写真の所有者の記録から昭和30年代のものと思われる。この通りには銭湯・旅館・靴屋・文具店・仕立屋等が軒を並べていた。

最後に図5は平成以降の三角の地形図(2万5千分の1)である。駅前の埋立が昭和40年代と比べてかなり進んでいることが確認できる。



図4 三角小学校へと続く昭和30年代の旭通りの街並み。(三角町西山写真館所蔵)



図5 平成9年の三角の地形図(2万5千分の1)。
(国土地理院作成)